

めあてを高く
できるまで やれ

岡崎市立梅園小学校

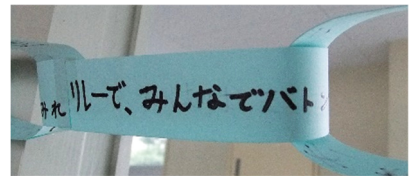
校長室だより 14

令和 2年11月 2日
こん どう ふみ ひこ
近 藤 文 彦



体育的活動参観と学習成果

体育的活動参観は10月17日(土)に予定されていましたが、前日に5・6年生のありんこ活動で準備を行いました。会場設営や準備内容も例年とは違いましたが、草取りや石拾い、器具や審判の練習も行うことができました。教室には、当日への思いや雨が降らないように願いが書かれた巨大なテルテル坊主や、目標や願いの書かれた紙を繋げた掲示物もありました。子供たちも教師も、「表現運動等の学習成果を発表したい」という気持ちが高まっていました。しかし、夜から雨が降り始め、その後の学校行事のため、27日(火)まで延期となりました。

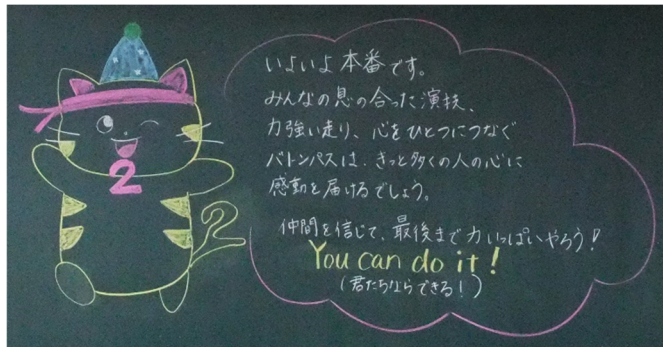
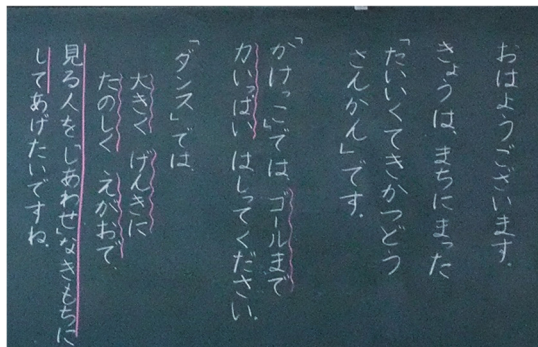


【教室掲示の様子】

運動会や学芸会などの行事に向けて取り組むとき、ひとくくりにして「練習」という言葉を使うことがあります。しかし、本来は「学習」であり、その中に練習する内容もあるのだと考えています。先生方には「〇〇の学習」と考え、そのように表現してもらおうようにしました。例えば、「表現運動の学習」「リレーの学習」などです。それらの学習の中に、多くの「学び」があります。そして、学びを支える「練習」もあると考えています。3～6年生は学級対抗リレーがありました。かなり前からバトンパスの練習をしている学級がありました。うまくバトンパスができるようになるまで、何度も何度も繰り返し練習していました。本番のリレーでは、バトンゾーンの使い方にも個人や学級によって違いがありました。リレーの学習で学んだことを生かして、子供たちで作戦を考えて取り組めるように指導していきたいと思いました。

表現運動は高・中・低の2学年ごとに取り組みました。延期したため学習時間は多少増えましたが、短い期間でかなり仕上げる事ができたように感じました。今後タブレット端末も全学年で一人ずつに貸与されるので、タブレット端末を活用した学習も考えられます。学校でも家庭でも、映像を見ながら学習したり、自分の様子を記録したりすることで効率よく学ぶことができるようになるのではないかと考えます。来年度の取り組みに向けて、早めに検討していきたいと考えています。

久しぶりに子供たちの歓声が響き、心がひとつになる演技や競技を見ることで、心が温かくなり、幸せな気持ちになりました。御参観ありがとうございました。



【体育的活動参観日の黒板メッセージから】

花育推進事業に参加：園芸部



【観葉植物に関するクイズ】



【観葉植物に触れる】

岡崎市花き温室園芸組合では、児童が花や緑に親しみ、育てる機会を提供することで豊かな心の形成及び岡崎市産花きのPRを目的として花育推進事業を行っています。10月26日（月）に園芸部が令和2年度花育推進事業に参加しました。

当日は、岡崎市花き温室園芸組合役員・岡崎市農務課職員の方に来ていただき、愛知県や岡崎市の花き生産や観葉植物に関するクイズから始まりました。「愛知県は花き生産額が昭和37年から連続して58年間全国一位になっている」「岡崎市は観葉植物の産出額県内3位」などがわかりました。また、観葉植物の効果として「空気清浄」「リラックス」「目の疲れを癒す」「快適な湿度調整」「森林浴効果」「モチベーションアップ（やる気上昇）」「ストレスの軽減」があることを学びました。園芸部の子供たちは、クイズや質問に活発に答えたり、自分の考えを積極的に話したりしていました。

その後、今回の事業で本校に寄贈していただいたネオレゲリア、アンスリウム、ネペンテス、ポトス、アスプレニウム、オキシカルディウム、ブラックカージナル、クッカバラ、ヒメモンステラ、サンスベリア、アグラオネマ、カラテア、シクラメンの18鉢・40ポットの植物を紹介していただき、育て方の説明も聞きました。園芸部の子供が各教室に持ち帰り管理しています。観葉植物の効果が各教室内にもあらわれると思います。食虫植物（虫を食べる植物）のネペンテス（別名ウツボカヅラ）は、東西の昇降口に置かれているので来校された際に見ていただければ幸いです。

本校に在職された香村克己先生の詩集「子供たちとの四季」に下の詩がありました。



【昇降口の植物】

花のない教室

（一九八三 四一四）

花のない教室は さみしいものだ。

花びんは 五つもあるのに

口をあけたままだ。

自分の教室を花で飾りたいという

やさしい心の子はいないのか。

道ばたの花でもいい

家の花でもいい。

毎日毎日の生活を、
五年生までの続きの暮らし方で

だからだと毎日、同じように

感動もなく

大きな夢もなく

自分だけのことを考えて送っている。

ぼくが持ってきた木れんの花がかれ、

だれかの持ってきた水仙がかれ、

花は、一つもなくなくなった。

植木鉢の花は、卒業生からもらったものだが、

水をやる子もない。

花もなく、

水をやるやさしさもなく育っていく人間は、

体は大きくても花の咲かない枯れ木と

同じではないのか。

37年前の詩で時代が違うのかもしれませんが。本校の学区には「道端の花」など存在しないのかもしれませんが。教室に置かれた植物や花の様子にもそっと気を配れる、そんな子供を育てたいです。